

20001

左総腸骨動脈仮性動脈瘤の診断において造影CTが有用となった症例の報告

【背景】厚生労働省「チーム医療の推進に関する検討会」における「チーム医療の推進について」の報告書内にて診療放射線技師の読影補助が促され、チーム医療としての役割は今後大きくなると考えられる。当院にて経皮的冠動脈形成術（PCI）を行った患者について、穿刺が原因と考えられる左外腸骨動脈仮性動脈瘤を生じ、診療放射線技師の読影補助が診断及び治療において有用であると考えられた症例を経験したため報告する。【経過】PCI後に視覚的及びHb低下により穿刺部血腫が疑われ、単純CTが依頼される。単純CT上、左外腸骨動脈復側に周囲血腫像を含む類円形の構造物を認めた。なおHb低下は大きな推移は認められず、Activeな出血は否定的であると考え、穿刺が原因と考えられる医原性仮性動脈瘤を疑い、診断のために担当医へ造影CTの追加検査を促す。造影CT上、類円形の構造物は動脈相にて造影効果を示し、医原性仮性動脈瘤と診断。また、静脈相を撮影するも周囲血腫には造影効果認められず、Activeな出血はないと考えられた。【結語】読影補助から追加造影検査を促すこと診断が可能となり、本症例においてはCT施行同日に超音波ガイド下トロンビン注入療法が行われ、迅速な治療が可能となった。検査に当たる診療放射線技師は疾病への知識に加え、画像所見及び臨床所見をもとに鑑別診断の補助を行うことで医師や他のスタッフの信頼を得ることができチーム医療を担う一端として、より高度な医療を提供することができると思われる。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号